

**BUỔI**



**Trung văn ②**

## 問題 5 6 :

今までは、どちらかという、どんな心持ちで勉強や仕事をしていったほうが幸せだろうかという視点で考えてきましたけれど、そうではなくて、社会の制度のあり方として、どんなものがよいだろうかという点を考えてみます。

ひとつの提案は、もう少し進学のプロセスを変えてはどうか、少し大胆にいうと高校からダイレクトに大学へ進学するのを原則禁止して、いったん社会に出て働くことにしてはどうか、ということを考えています。

よく言われていることですが、日本の大学は、大学入試のゴール地点になってしまっていて、そこで何を学ぶのか、そこでどんなことを身につけるのかという意識がかなり希薄です。いっぽうでは、大学を出てから働き始めた多くの人が、大学時代にもっと勉強をしておけばよかったと後悔したり残念がったりしている姿をよく見かけます。①これはとてももったいないことだと思います。

このようなことを言うと、ならば、大学でもっと勉強をさせるようにすればいいじゃないか、それは大学でちゃんと教えていない君たち教師の責任じゃないか、というお叱りを受けそうですし、たしかに。②反省すべき点は多々あると思います。けれども、現状では大学生がなかなかやる気を持ってないという面もあるように感じています。

それは、実社会で実際の仕事などを経験してみないと、その学問の重要性や必要性を実感できないという面があるからです。とくに経済学のような学問はそういう傾向が強いように思います。

問い 1: ①これはとてももったいないこととあるが、何がもったいないのか。

1. 勉強できる環境では勉強の必要性に気づけず、卒業後に気づくこと
2. 苦勞して大学に入っても、大学の勉強が合わない学生が多いこと
3. 本当に勉強したがっている卒業生が、大学に入り直せないこと
4. 在学中の学生が、後悔している卒業生の姿を見ることができないこと

問い2：②反省すべき点は多々あるとあるが、反省するのはだれか。

1. 大学生
2. 大学の教師
3. 叱っている人
4. 大学を出てから働き始めた人

問い3：筆者が大学進学について提案をしているのはなぜか。

1. 大学進学者の数を少なくするため
2. 大学の授業をもっと深い内容にするため
3. 大学生がやる気を持てるようにするため
4. 大学に入ってから後悔しないようにするため